

子どもはほとけさま

岐阜教務所長 出雲路 善公

2017年10月からご縁がありまして、岐阜教務所長と岐阜別院輪番を仰せつかることになり1年が経ちました。岐阜別院には聖徳保育園が併設されており、園長も兼ねております。園児が300人もいるマンモス保育園ですが、伝統ある保育園です。この保育園では毎年別院の報恩講に絵を展示するために、仏さまの絵を描いています。今年も年長さんたち60人の園児が思い思いの仏さまの絵を描いてくれました。本堂に展示された絵を見て、びっくりしました。その仏さんはどれも本当に色鮮やかなものばかりで見事でした。そしてもう一つ驚いたのは、どの仏さんを見ても、にこにこしている仏さんばかりです。中には目をつむって考え事している仏さんもいましたが、ちょっと微笑んでいました。皆さんもお寺でお参りした時に仏さんをご覧になっておられると思いますが、実際の仏さんは薄目を開けて考え事をしているように見えるでしょう。

さて、大人である私たちが仏さんを書きなさいと言われたら、どの様な絵を描きますか？私だったら、写實的に眼で見た通り書きます。そして、どのような思いで描くかと言えば、上手に描こうとか、人から称賛されるような絵を描こうとか思ってしまうものです。ですから、私には園児のような絵はとて描けません。なぜなら、私の自分の眼、その目は外を見る目であり、その目で見て描くものですから、そこには障りが入ってしまうからです。でも、子どもたちは、仏の眼で仏さんを描いていますから、障りがありあません。その園児たちの絵を見て、仏の眼を感じさせていただきました。私もこういうときがあったのに、我執にとらわれて、大事なことを見失っていたことに気づかされたことでした。

本当に子どもは仏さまでした。